

平成 28 年 8 月 5 日実施

「親子で学ぼう！読書感想文」保護者プログラムの様子

講師：福地 朋子さん

(一般社団法人教育コミュニケーション協会 キッズ作文トレーナー)



【子どもの説明力と保護者のかかわり方についてのお話】



★キッズ作文トレーナーは、作文というツールを使って、自分の意見や感情を他人にしっかり説明できる、そんな子どもになってほしい！
ということを願って、活動しています。

★子どもと話をするとき、子どもに「伝えたい」「教えたい」と思わせることが大事。
子どもは、話を聞くときだけではなく、人に何かを伝えるときにも、すごく学んでいます。
聞く大人は、「それ知ってるで」ではなく、「そっか～」とまず受け止めて。

★例えば、「今日、学校どうだった？」という質問では、子どもも何て答えていいかわからず、「別に…」となってしまうがち。そうではなく、「今日の給食の時間で、何かママに教えたいことある？」と聞くと、「んー、そういえば、〇〇ちゃんがおかずこぼしてなあ」とか、話が広がるかもしれません。

★作文を書くことは、子どもの説明力を身につける入り口です。

★説明力のある子は、頭がいい子どもであるとか、しっかりしている子どもであるとかいうことではありません。
ルールに則れば、だれでも身に付くものです！
説明力は、センスではなく、科学です。
大人も含めて、説明が苦手だなと感じる人が多いのは、説明の仕方を具体的に学ぶ機会ないから。

★子どもの説明力は、毎日の親子の会話で練習できます。
子どもの話を聞くときのお約束は、「絶対に否定しない」「話を聞く姿勢で聞く」ということです。忙しくて手が離せないときは、「今ちょっと手が離せないから、5分後に聞くね」と言って、5分後にはちゃんと話を聞いてあげるようにしてくださいね。そうすると、子どもも大人のことを信用するようになります。

【子どもが書いている作文を、大人も体験してみよう】



★では、お子さんが今がんばって書いている作文を、大人も書いてみましょう。子どもさんは読書感想文を書いています。みなさんには「自分の子どものじまん」というテーマで作文を書いてもらいます。ワークシートの中身も、子どもさんが使うものとほぼ同じです。

★このワークシートは「意見や感情を引き出す7つの質問」をベースに作ってあります。気持ちを先に聞き、後で事実関係を聞くという順番になっています。5W1Hから聞くと、気持ちが出にくくなるからです。

★作文に間違いはないし、正解もありません。ほめポイントは、自分の考えや気持ちがどれだけ表現できたかに視点を向けることです。



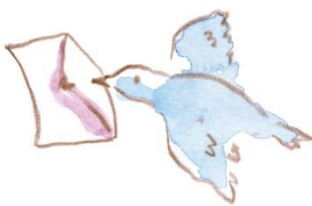
★なかなか、書けないでしょう？

子どもたちも、苦労していると思

います。なぜ言葉が出にくいかというと、やっぱりどこかで正解にこだわっているからなんです。これで合っているのかな、こんなこと書いていいのかなとか。

★あと、子どもの場合は、覚えていないので書けないこともあります。例えば、旅行について作文を書くとき、子どもは近い記憶しか残っていないので、デジカメで撮った写真を見ながら話をすると、思い出しやすかったりします。

【最後に】



★子どもたちも、がんばって読書感想文を書いたと思います。

途中までしか書けていない子もいるかもしれません。

でも、まずは読んでみて、自分の気持ちが表現できていることをほめてあげてください。

決して、子どもの書いたことを否定しないでくださいね。

♡アンケートより♡

- ・子どもとのコミュニケーションの取り方の参考になった。今日のこの講座を、子どもとともに受講することができて、これからの親子関係がよりよくなっていく予感がします。
- ・子どもの気持ちや考えを引き出す方法を丁寧に教えていただけて、とてもよかったです。地域の小学校でもぜひ講演してもらいたいです。素晴らしい講座です。
- ・読書感想文を書くことが、自分の考えや思いを伝える力になるということを知った。